

在外日本古美術品保存修復協力事業 (②セ04-12-2/5)

目 的

日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、これらの保存修復の専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、海外で所蔵されている掛軸などの紙本絹本文化財及び漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び修復して返還することを目的としている。また、ワークショップを開催し、保存修復に必要な日本の文化財に対する理解の深化、修復技術の移転を行う。

成 果

1. 作品修復：・キンベル美術館（アメリカ）所蔵 二十五菩薩来迎図 絹本著色 掛軸装 2 幅 修復中。
・シンシナティ美術館（アメリカ）所蔵 源氏物語図屏風 紙本著色 屏風装 6 曲 1 隻 修復中。
2. 作品調査：フランス：ギメ美術館（パリ）。ドイツ：ベルリン国立博物館群アジア美術館（ベルリン）。アメリカ：ホノルル美術館（ホノルル）。アルメニア：国立美術館（エレバン）、歴史博物館（エレバン）、チャレンツ記念館（エレバン）。グルジア：国立博物館（トビリシ）。イギリス：大英博物館、ヴィクトリア&アルバート美術館（ロンドン）、アシュモリアン博物館（オックスフォード）
3. ・Workshops on Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk、場所 ベルリン国立博物館群アジア美術館（ベルリン・ドイツ）：(Workshop 1) “Basic -Japanese paper and silk cultural properties-”、2012（平成24）年 7 月11～13日、参加者10名。(Workshop 2) “Advanced-Restoration of Japanese hanging scroll”、7 月16～20日、参加者11名。・“Workshops on the Conservation and Restoration of Urushi (Lacquer ware)”、場所 ケルン市博物館群ケルン東洋美術館（ケルン・ドイツ）：(Workshop I) 11月 2～3 日、参加者 7 名。(Workshop II) 11月 6～9 日、参加者 6 名。(Workshop III) 11月13～16日、参加者 6 名。

発表

- ・楠京子、山田祐子、加藤雅人、川野邊渉、君嶋隆幸、井上さやか「デンプン分解酵素の除去確認方法について—ケルン東洋美術館蔵「霊照女図」を事例として」 文化財保存修復学会第34回大会 日本大学 12.7.1
- ・山田祐子、楠京子、加藤雅人、川野邊渉、君嶋隆幸、井上さやか「ケルン東洋美術館蔵「霊照女図」修復事例報告—肌上げ時における酵素使用の検討及び表具乾燥方法の新しい試み—」 文化財保存修復学会第34回大会 日本大学 12.7.1
- ・江村知子「光琳の作画における伝統と創造」 第 7 回JAWS10周年記念公開研究会 ハワイ大学マノア校 12.7.19
- ・皿井舞「平安彫刻における伝統と創造」 第 7 回JAWS10周年記念公開研究会 ハワイ大学マノア校 12.7.19

刊行物

- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 絵画／工芸品 平成23年度』 東京文化財研究所 12.10

研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、江村知子、楠京子、山田祐子、川端冴子（以上、文化遺産国際協力センター）、早川典子、山下好彦（以上、保存修復科学センター）、山梨絵美子、綿田稔、皿井舞、城野誠治（以上、企画情報部）、安孫子卓史、深井啓（以上、研究支援推進部）

Indo-Japanese Project for the Conservation of Ajanta Paintings—Digital Documentation of the Paintings of Ajanta Caves 2 and 9, Indo-Japanese Joint Project for the Conservation of Cultural Heritage, Series 3 (②セ03の一環として実施)

本報告書は、『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業—第2窟、9窟壁画のデジタルドキュメンテーション—』インドー日本文化遺産保護共同事業報告第3巻（2012年3月刊行）の英語版である。（2013年2月刊行）



『在外日本古美術品保存修復協力事業 絵画／工芸 平成23年度』（②セ04の一環として実施）

本書は、在外日本古美術品保存修復協力事業における作品修復、及びワークショップに関する報告書である。

絵画としては、源平合戦図屏風（スイス）、竹に雀図屏風（スイス）、四季花鳥図屏風（アメリカ）、伯牙弹琴図屏風（イギリス）、山水図（ドイツ）、漆工芸品としては、菱繫文螺鈿筆筒（チェコ）、花樹鳥蒔絵螺鈿筆筒（イギリス）、螺鈿鶴形合子（オランダ）、花鳥螺鈿枕（オランダ）、瀧蒔絵鼓箱（ドイツ）、折枝散蒔絵喇叭（オランダ）の修復を行った。

ワークショップは、「紙本絹本文化財の保存と修復」（ドイツ・ベルリン、2010（平成22）年10月5日～13日）、「漆工品の保存と修復」（ドイツ・ケルン、2010（平成22）年11月14日～25日）の内容で行った。

